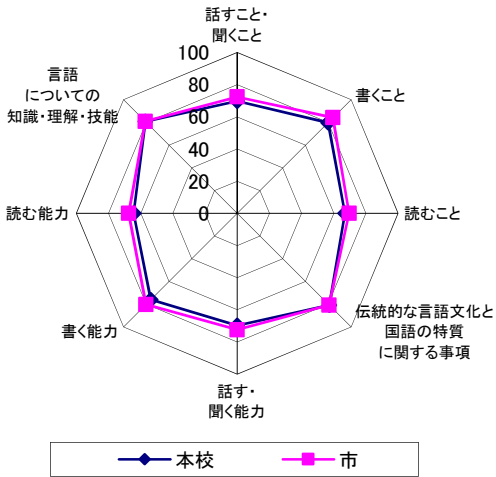


宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	69.7	72.4	70.5
	書くこと	79.8	84.1	70.0
	読むこと	67.0	69.5	64.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.9	80.8	77.7
観点別	話す・聞く能力	69.7	72.4	70.5
	書く能力	76.1	80.2	68.0
	読む能力	64.4	67.5	62.4
	言語についての知識・理解・技能	80.8	80.8	77.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

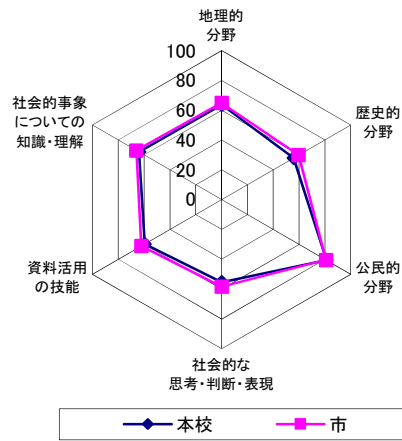
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を2.7ポイント下回っている。 ○相手の考えを尊重しながら司会者としての役割を果たす問題では、市の平均を2.9ポイント上回っている。 ●「話の展開に注意しながら聞き取る」という問題は、市の平均を1.8ポイント下回っている。	・話し手がどのような内容を伝えようとしているのかを、メモをとりながら聞き、内容がまとめられるようにする。 ・聞き取りテストの実施回数を増やして要点や概要をとらえる聞き方を養う。 ・聞いた内容をまとめ、それに対して自分の考えを話せるように、授業の中だけでなく日常生活の中でもメモをとる習慣や自分の考えをまとめる力を身に付けさせる。
書くこと	平均正答率は、市の平均を4.3ポイント下回っている。 ●自分の考えを明確にして書く問題では、市の平均を8.9ポイント下回っている。	・伝えたい事柄について根拠を明確にして文章を書く練習を授業等で繰り返し行う。そのときに段落構成が意識できるように、接続詞の確認や段落の構成メモの作成をして段階的に力を伸ばせるように指導を続ける。 ・書いた文章を読み直し、論の展開や語句の使い方を推敲する時間を適宜確保する。
読むこと	平均正答率は、市の平均を2.5ポイント下回っている。 ○文章の表現の特徴をとらえる問題は市の平均を0.6ポイント上回っている。 ●説明文での構成や展開をとらえる問題は市の平均を5.7ポイント下回っている。	・文章の展開に即して内容を読み取る時間を授業で確保し、文章に書かれているものの見方や考え方を捉えて、物事を複数の視点から見られるように考え方を広げていく。また、説明文では接続表現の使い方に注目しながら、文章の流れに則して展開を把握していく力を養う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均を0.1ポイント上回っている。 ○品詞の問題は、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ○敬語の問題は、市の平均3.6ポイント上回っている。 ●用言の問題は、市の平均を6.6ポイント下回っている。	・文法は引き続き継続的な指導を行うとともに、定期的にテストを実施して生徒が理解できているかを確認し、生徒の苦手な箇所を把握したうえで、的をしぼって指導していく。 ・漢字の書き取りでは、毎週漢字テストを行って、漢字を覚える習慣づけをしていく。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.6	64.8	54.5
	歴史的分野	55.8	59.7	52.2
	公民的分野	81.1	80.9	69.4
観点別	社会的な思考・判断・表現	55.4	58.3	49.5
	資料活用 の技能	59.5	62.2	53.1
	社会的事象についての知識・理解	64.0	66.0	57.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

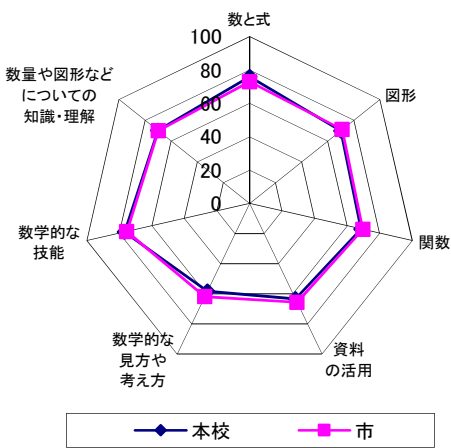
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	平均正答率は市平均を1.2ポイント下回っている。 ○知識・理解を観点とする問題では、過半数の問題で市平均を上回っており、知識・理解に関する力はある程度身に付いていると思われる。 ●思考・判断・表現や技能を観点とする問題、さらに「地球の姿」「世界から見た日本の姿」では、市平均を下回る問題が多い。資料を読み取り、特に複数の資料を読み取って関連を説明する問題の正答率が低い。	・社会科は、知識・理解を押さえつつ思考・判断力や技能(資料活用力)を高める教科である。地理的分野では、写真や地図、グラフ、統計資料から地域の特色を読み取り、説明する力を身に付けさせたい。 ・1年生や2年生時の初期の段階で学習した内容の問題で正答率が低い傾向にあるため、復習を促したり単元構成の見直しを進めたりするなど工夫していきたい。
歴史的分野	平均正答率は市平均を3.9ポイント下回っている。 ○「古代までの日本」についての知識・理解を観点とする問題の正答率は、市平均とほぼ同程度であり、1年時の学習内容の定着度は高いと思われる。 ●思考・判断・表現を観点とする問題や、江戸時代の多くの問題の正答率は市平均を下回っており、2年時の学習内容の定着が不十分であることが分かる。	・歴史的分野では、知識・理解を押さえつつ史料や地図などから歴史的事象の特色や意義を読み取らせたい。 ・古代や近世、中世といった時代構成や平安時代、江戸時代などの各時代の特色を、歴史的事象の関連や意義を把握する学習を通して理解させていきたい。
公民的分野	平均正答率は市平均を0.2ポイント上回っている。 ○出題4問中2問で市平均を大きく上回っており、他2問も下回ってはいるが高い水準である。「私たちの生活と現代社会」の学習内容について、定着度が高いことが分かる。 ●思考・判断・表現を観点とする問題3問中2問で市平均を下回っている。資料を読み取る問題を苦手としている傾向がある。	・公民的分野では、現代社会のしくみと考え方、課題や社会の取り組みを知識・理解として身に付けさせ、その意義や影響を考えさせたい。また、現実社会の出来事と照らし合わせてとらえさせたい。そのために、授業に新聞記事やニュースを積極的に取り入れていく。 ・授業の中で、資料から読み取る学習活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	76.0	73.0	67.5
	図形	70.0	71.1	59.5
	関数	68.5	69.7	60.0
	資料の活用	63.4	65.6	58.5
観点別	数学的な見方や考え方	58.2	61.8	49.6
	数学的な技能	76.8	75.4	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	70.2	69.8	62.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

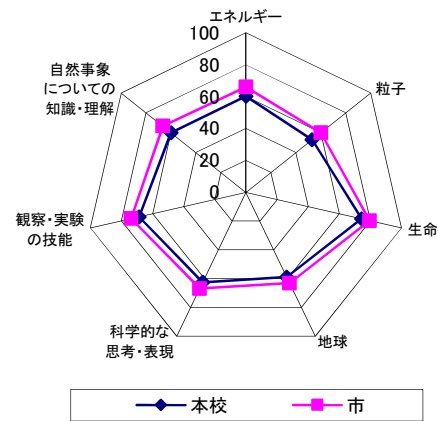
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は市平均を3.0ポイント上回っている。 ○式の計算や展開と因数分解、平方根では、ほとんどの問題で市平均を上回っており、基礎的な計算力は身に付いている。 ●方程式の問題では、連立方程式や2次方程式の立式の問題が市平均を下回っている。方程式を利用して解くことができるようにすることが課題である。	・方程式の利用の問題では、1次方程式、連立方程式、2次方程式と3年間かけて、繰り返し学習するため、問題文を理解し、手順に従い立式ができるように練習させる。
図形	平均正答率は市平均を1.1ポイント下回っている。 ○多角形の角度を求める問題では、市平均を上回っており、内角や外角などは理解している。 ●証明の問題では、市平均を下回っており、証明の意味や内容について課題がある。	・証明の問題は、生徒が苦手とするところである。しかし、順序立てて根拠を説明することは、日常生活にもつながるところである。図を使って証明の内容を繰り返し確認しながら、証明が書けるように指導していく。
関数	平均正答率は市平均を1.2ポイント下回っている。 ○1次関数の式やグラフの理解については、市平均を上回っており、1次関数については理解している。 ●グラフからの読み取りなど関数の活用問題では市平均を下回っており、課題がある。	・関数の式、表、グラフの関係性を理解させることが必要である。そのため、活用問題を扱うときには、式、表、グラフと関連付けて問題を解くことができるように指導していく。
資料の活用	平均正答率は市平均を2.2ポイント下回っている。 ○代表値を求める問題では、市平均を上回っている。 ●代表値を利用して課題を解決する問題では、市平均を下回っており、課題がある。	・資料の活用は、日常生活とつながるところがあり、身近なものである。代表値(平均値や最頻値など)を使って、自分の言葉で説明できるように、問題の提示の仕方を工夫し、指導していく。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	60.3	66.1	56.4
	粒子	52.9	60.0	57.4
	生命	74.3	79.4	75.2
	地球	58.8	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	62.5	66.8	57.2
	観察・実験の技能	68.7	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	60.0	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

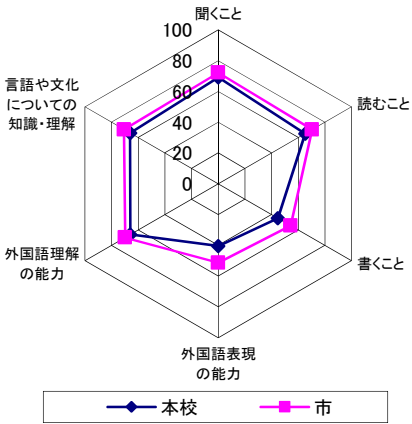
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は市の平均を5.8ポイント下回っている。 ○コイルと検流計の振れ方の関係を調べる実験の条件を考えることについては、市の平均を0.4ポイント上回っている。 ○「電離」という言葉を知らなくても、銅イオンの性質等を答える問いに対して、正答率が上がっていることは、イオンの成り立ちを科学的に考察していると考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・化石燃料から得られる電気エネルギーに依存する社会から、再生可能エネルギーの普及を目指すためにも、エネルギーの有効活用の方法を学ばせ、新しいエネルギーの開発に興味を持たせられるような指導を工夫していく。 ・コイルと検流計の振れ方の関係を調べる実験の条件を考えることについては市平均を上回っていることから、より効率の良い機械を創造する発想が養われていると考えられる。ものづくりの出来る技術者を育てることを目標に指導していきたい。
粒子	平均正答率は市の平均を7.1ポイント下回っている。 ●粒子を科学的にとらえる問いに対して「電離」と答える正答率が本市に比べ11.0ポイント下回っている。 ○「電離」という言葉を知らなくても、銅イオンの性質等を答える問いに対して、正答率が上がっていることは、イオンの成り立ちを科学的に考察していると考えられる。	・物質をつくる原子についてはモデルを使いながらシュミレーションし、決まり事を見つけられるよう指導する。また、粒子の結合によって物質がつくられていることを理解させ、資源の有効活用についても深い学びができるよう指導する。 ・ガスバーナーの操作の仕方についての問いに対しては、約半数の生徒が誤解答であった。他の生徒に任せず、生徒ひとりひとりの活動として実験をさせるよう、パフォーマンステストを活用する。
生命	平均正答率は市の平均を5.1ポイント下回っている。 ○動植物の問いには、市の平均値とほぼ同等の理解力を示している。 ●花の部位の名称を答える問いに対し、13.6ポイントの生徒が誤解答をしている。 ●花のつくりを論理的に考察する問いに対して、誤回答をする生徒が45.5ポイントである。	・古代からの生命について、親から子へつながっている事象を例にし、長い年月の進化過程を統計的に考えさせ、細胞に関しては遺伝の情報が大きく関係していることを重点的に考えさせる機会を増やし指導する。 ・動植物の各部名称を覚える指導の工夫が必要である。簡単な名称の為、確かな知識として忘れない記憶になるまで、書いて覚えさせるなどして指導する。
地球	平均正答率は市の平均を4.3ポイント下回っている。 ○地層の様子についての平均正答率は、市の平均正答率と同等である。 ●日本の気象についての問いには、平均正答率は市の平均を5.4ポイント下回っている。	・限りある資源の有効活用や、新しい再生可能エネルギーの開発等、現代社会における課題を考察させる。その為には、地球環境の変化や内部の構造が知識として必要であることを意識させ学習への支援を行う。 ・単元学習時にこだわらず、年間を通して季節ごとに天気や天体の学習を取り入れ指導する。

宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	69.1	72.2	67.8
	読むこと	65.2	70.5	70.4
	書くこと	44.7	54.3	54.0
観点別	外国語表現の能力	40.4	51.2	49.2
	外国語理解の能力	66.0	69.8	65.8
	言語や文化についての知識・理解	66.1	70.7	74.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、3領域の中では最も高いが、市の平均を3.1ポイント下回っている。 ○英文の概要を聞き取る問題においては、正答率が高い。 ●対話の内容を聞き取り、案内をもとに英語で答える問題の正答率は、市の平均を3.5ポイント下回っている。無解答率が16.7%と高く、応答する英文を書くことが課題である。	・日ごろからクラスルームイングリッシュやオーラルインタラクションを多用するなど、継続した指導が必要である。 ・音読練習の際に、音の連結や脱落などの変化を事前に指摘しておく。 ・定期テストや単元末テストにおいてまとまりのある英文のリスニング問題を出題し、聞く力を身に付けさせたい。 ・授業内で、「聞くこと」と「書くこと」が関連付けられた活動を積極的に取り入れて指導していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を5.3ポイント下回っている。 ○対話文の情報を正しく読み取る問題では、市平均を上回っている。 ●読み取った内容をふまえて、英文を完成させる問題は、市の平均を10.4ポイント下回っている。メールの内容をふまえて、適語を補充し要点をまとめることに課題がある。	・様々な文型やいろいろな種類の文章に慣れさせ、英文の概要をつかむ読み方の習得を目指す。 ・英文読解後に、内容を英語で要約したり、自分の感想を英文で表現したりするような活動を増やし、読む活動の中に書く活動をまじえながら指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を9.6ポイント下回っている。 ○正しい語順で、現在完了形の疑問文を書く問題では、市平均を上回っている。 ●小学生のときに印象に残った思い出について、うれしかったことや楽しかったことなどを含め、つながりのある3文以上の英文を書く問題では、テーマにそって3文以上で書くという観点で、市の正答率を19.6ポイント下回っている。	・英単語が正確に書けること、正しい語順で英文が書けることが英語の基礎学力であることを一層生徒に理解させる。さらに、その学年で学ぶ新出英単語をスパイラル的に音読練習する活動を授業の常活動として、継続的に実施・指導する。 ・教師や友人との、英語による口頭のやり取りを増やしていくことで、自分の身の回りのことを英語で表現する機会を増やし、書く活動につなげていくように指導を行っていく。 ・授業の振り返りとして、その日のポイントとなる文法事項を活用した自己表現活動に繰り返し取り組ませ、自分の考えを英文にする指導を継続していく。

宇都宮市立雀宮中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・振り返り活動と連携させた、家庭学習ノートの活用	家庭学習の一部として、「家庭学習ノート」に1ページの自主学習を行い、提出することに取り組ませている。授業を振り返り、復習の具体的な内容や方法について自主決定して、目的をもって実践させている。	・「授業で習ったことをその日のうちに復習している。」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」の肯定的回答率は全て市の平均を10ポイント以上上回っている。
・自分の考えをまとめ、記述・発表する指導の充実	教科部会において、誤答分析や感染防止に努めながら書いたり話し合いを行う学習活動の場面について検討し、共通理解を図りながら実践している。授業の振り返りについても、自由記述させている。また、授業研究会を開き、指導法について教師間で共有している。	・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」の肯定的回答率は概ね市の平均を上回っている。 ・各教科のほとんどすべての記述式問題で、市の平均正答率を下回っている。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査ともに、記述式設問の正答率のほとんどは市の平均正答率を下回っているが、無回答率は市の平均と比べると低い設問も複数あるので、表現力の育成を主眼とした授業研究等による学力向上研修に取り組んでいる成果が出始めていると考えられる。定期テスト等の表現力を求める設問における正答率にも伸びが見られているので、来年度も引き続き表現力の育成に努めていきたい。

・国・県・市の調査において、家庭学習における取組は市の平均を大いに上回っている。学校全体で取り組んでいる「振り返り活動と連携させた家庭学習ノート」の指導が功を奏していると思われる。次年度も、テスト等の解き直しやその日の授業の復習を目的とした家庭学習ノートを使った自主学習の指導を継続していく。